

アシスト



本校の「心のバリアフリー授業」について

本校では、小・中学校等に出向いて行う障害理解授業について、今年度から「心のバリアフリー授業」と呼んでいます。「障害」と線を引くことなく「自分ごと」として理解してほしい、そして障害の有無に関わらず自分や他者を認め合う気持ちをもってほしい、授業がそんなきっかけになればという思いがあります。また、小・中学校等にも配慮が必要な子どもたちがいる中、打合せなどで担任の先生たちと話をするうちに、より学級の実状やニーズに合わせた内容の検討が必要になると考えました。そこで、担任の先生方と打合せで思いを共有し、お互いにアイデアを出して役割分担をしながら一緒に授業づくりをするよう心掛けてきました。ほんの一部ですが、今年度行ってきたことを紹介します。

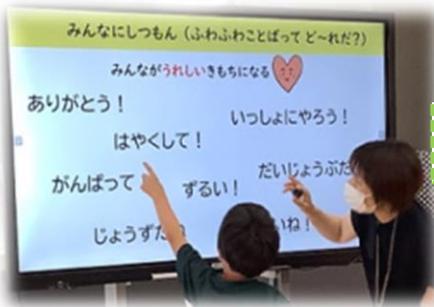
授業で活用した絵本

絵本

すきなこと
にがてなこと

くもん出版

好きなことや苦手なことは一人一人違って、お互い支え合って生活することのよさを伝える内容。「自分ごと」として考える一助になっていると思います。



1年生

体験の前に、「ふわふわことば」「ちくちくことば」の確認

担任の先生方と一緒に、「上手だね!」「がんばって」など、ふわふわことばを意識した演示をします。



体験しよう
「フラフープリレー」
ともだちと気持ちを合わせよう
「ふわふわことば」で伝えよう



体験で見られた「ふわふわことば」や友達を思いやる行動について、担任の先生が子どもたちと振り返りをし、もう一度体験してから、再度振り返りをします。



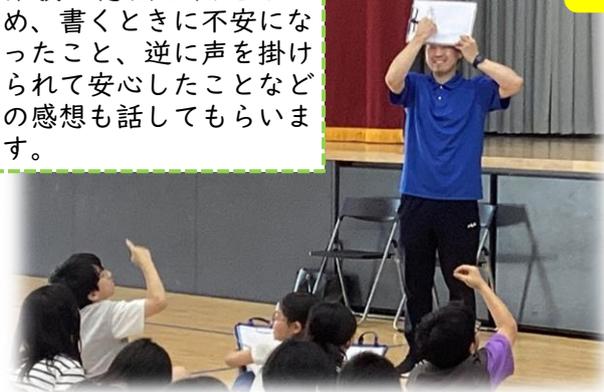
6年生



事前に「好きなこと苦手なこと」のアンケートを行い、授業の中で担任の先生が「人それぞれ違いがある」という観点で紹介（名前を伏せて、ドットプロットで）

担任の先生の演示では、体験の意図を伝えるため、書くときに不安になったこと、逆に声を掛けられて安心したことなどの感想も話してもらいます。

苦手さを体験しよう
「書く」（おでこにのせて）



子どもたちの感想（一部抜粋）

・あいての気持ちがかんがえて、それにあわせた「ふわふわことば」をはなすことがたいせつだとおもいました。（1年生）

・わたしは人前で発表することがあまり得意ではなく、自分のだめな所だと思っていたけれど、その人の苦手なこと、好きなことはすべて自分らしさということがわかりました。（6年生）

・これからは、人とちがったり、友達がみんなとちがう意見だったりしても、みとめあって、絵本のように他の人と協力しながら生活していきたいです。（6年生）

先生方のアンケートより（一部抜粋）

（学級目標を挙げて）こうなってほしいと願う子ども像に近づくことができる内容で、子どもたちも担任も嬉しい体験をすることができた。

道徳の話合いの中で「ふわふわ言葉を言えばよかったのね。」など、優しい言葉に意識が向いてきたように思う。

思いやりのある言葉、行動があったときに、「ふわふわ言葉だね。」と子どもから声が掛けられていた。

「助け合いたい」「助けてもらえる」という、優しさや安心感が子どもたちの振り返りカードから伝わってきた。

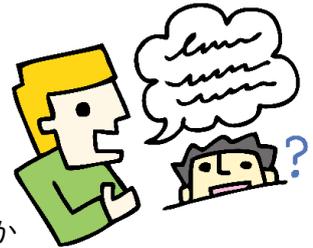
授業の振り返りなどで「みんなちがっておもしろい」とか「みんなちがうので考えが深まった」というような記述が増えた。

学習時間や学校生活の中で、友達のよさを認め合う発言が多く聞かれるようになった。友達の苦手なことを指摘したり、責めたりする言動が減ったように思う。

普段の学校生活とのつながりにおける子どもの様子や感想を多くいただきました。また、授業の改善に向けて、具体的な提案をしてくださる先生方も増えています。「一緒に授業づくり」を感じる嬉しい提案です。ご協力いただきました先生方、本当にありがとうございました。

先生方が試したり積み重ねたりしてきた子どもたちへの工夫や配慮を紹介

みなさんは、あまりよく知らない国の言葉で話し掛けられ続けたら、どのような気持ちになるでしょうか。必死になって聞き続けようとする人、聞こうとすることをあきらめる人、その場から逃れたいくなる人など、様々かと思えます。また、その国の文化が分からない中で食事をしなくてはならなくなったら、どうするでしょうか。周りを見て、どうしたらよいかヒントを探したり、見て真似てみようとしたりする人が多いのではないのでしょうか。



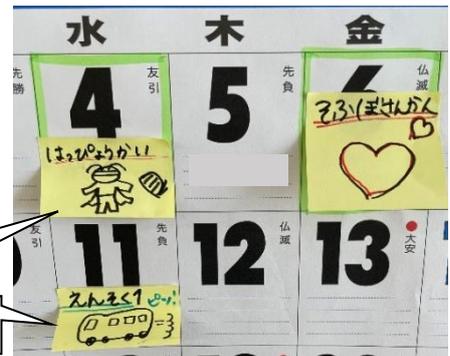
「分からない」状況が続くと不安になり、少しでも「分かる」ことがあると、少し安心して、自分から動いてみようという気持ちになると思います。

今年度、地域の園や学校を訪問させていただいた中で、幼児児童生徒のみなさんが、安心して、分かって、又は強みを生かして、自分から活動したり学習したりするための先生方の工夫やかかわりが様々ありました。その中のいくつかを紹介させていただきます。

その子どもが理解しやすい方法を取り入れた工夫



ある園で、話し言葉だけのやりとりでは、何度も確認に来たり、活動に向かうことが難しかったりするお子さんへ行っていった取組です。やることをイラストと文字で掲示したり、そのお子さんが楽しみにしていることや気になっていることをカレンダーに手書きのイラストで記したりするなど、そのお子さんが見て分かる工夫が進められていました。これらを見て話を聞くことで、気持ちの準備や切り替えをして活動する様子が見られたそうです。

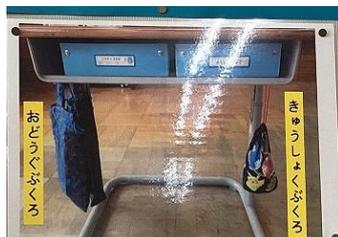


衣装を着て発表するよ

バスに乗って遠足に行くよ

みんなが見て分かる工夫

ある小学校1年生の教室です。園生活から、「自分の持ち物」がぐんと増える1年生。何をどこに置くとか、みんながいつでも見て具体的に分かるように掲示されていました。



得意な方法で学べる工夫

ある高校3年生の取組です。就職面接に向けて、自分の考えをまとめる学習の際、クロムブックに打ち込んで整理する方法、クロムブックに音声入力して整理する方法などを選択できるようにしたそうです。それぞれ得意な方法で考えをまとめました。



年度末となり、引継ぎの時期が来ました。先生方が、子どもたちの成長や学びに向けて試してみたり積み重ねてきたりした工夫や配慮、かかわりを、ぜひ、次年度へつなげていきましょう。

(文責：小野直子)

秋田県立支援学校天王みどり学園

TEL:018-870-4611 FAX:018-870-4612

教頭:佐川 透 教育専門監:小野 直子 支援部:遠藤 美和子

特別支援教育地域センター(男鹿市立船川第一小学校内):月・水・金 TEL:0185-24-3231

特別支援教育アドバイザー:小松 美幸